

# 主権者教育としての歴史授業の単元開発

## —日本史における差別・抑圧をテーマに—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

青山 昌平

近年、主権者教育の分野ではその課題として、選挙の投票に焦点を当てた有権者教育が中心となっており、平和で民主的な社会の形成者に必要な資質・能力を育てているとは言えない点が指摘されている。また、主権者教育の中心を担うべき社会科教育の中で、歴史教育は歴史的思考力の育成が中心で、主権者としての資質・能力の育成を実施できていない。これらの課題を踏まえて、主権者としての資質・能力の育成を目指した現代の社会問題の歴史を学ぶテーマ学習の授業開発を行った。本研究では現代の社会問題として「差別・抑圧」をテーマとして設定し、「部落差別問題」、「旧優生保護法」、「『慰安婦』問題」の三つの単元を実践した。

日本史における「差別・抑圧」のテーマ学習の成果として、主権者教育としての資質・能力のうち、問題を見出して考察する力は発揮することはできたが高まっていく姿は見られなかった。一方で、差別に対する問題意識や問題解決の意欲は高まりを見せた。そのため、資質・能力のうち、態度・意欲の部分では複数の単元を学ぶ意義があったと言える。

本稿では、このような三つの単元からなる「差別・抑圧」の日本史テーマ学習が主権者としての資質・能力の育成のどのような効果があったのか、一つのテーマに対して三つの単元を学んだ意義はどのようなものであったのかについて考察した結果を述べた。